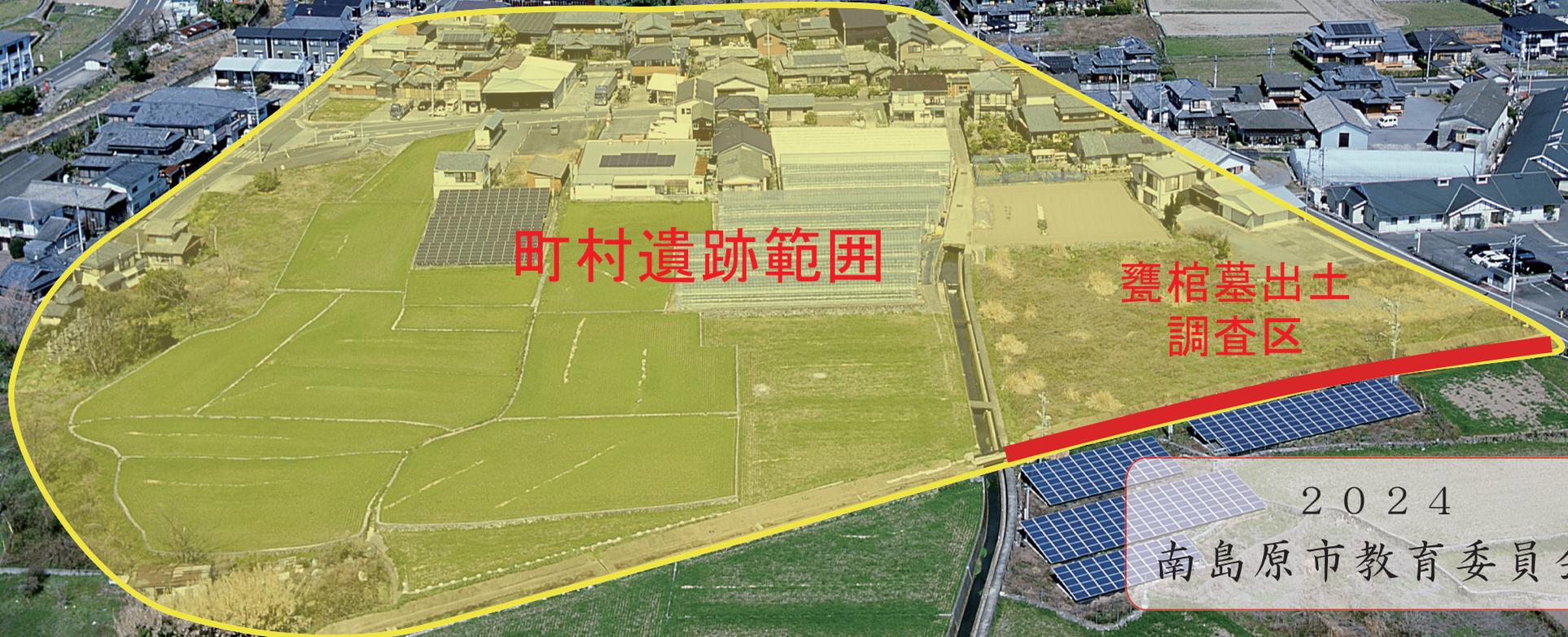


# 町村遺跡発掘調査速報展



町村遺跡範囲

甕棺墓出土  
調査区

2024  
南島原市教育委員会



まちむら  
町村遺跡（有家町所在）は市道南島原自転車道線整備工事に伴う調査で、令和4年度に2回に分けて実施されました。調査幅が1.5mしかない状況にもかかわらず、甕棺墓かめかんぼや土坑墓どこうぼなどがたくさん確認され、町村遺跡は墓の特徴をもった遺跡であることがわかりました。特に甕棺墓はしょうにかんしょうにかん せいじんかんせいじんかんが認められ、弥生時代中期（約2000年前）北部九州の影響を受けたことも判明しました。

私たちの暮らしの中で集落の近くに墓地をみることができます。町村遺跡の調査によって、周辺一帯は墓域である可能性が高くなりました。現在の集落と墓地の関係を当てはめてみれば、町村遺跡の墓域の近くに居住空間である集落が存在したことが十分に考えられます。また、墓域の規模からすると、集落には多くの人々が住んでおり、この一帯にかけて、一つのムラが存在したのではないかと考えられます。今回の町村遺跡の調査の最大の成果と言えるでしょう。



### 成人棺（SK-16）

写真左上…甕棺墓および口縁部付着粘土出土状況

写真右上…粘土付着状況（近景）

写真右中…付着粘土断面状況

写真左下…甕棺墓内土層堆積状況

写真右下…完掘

しょうにかん

### 小児棺 (SK-14)

かめかん ぼ

あわせぐちかめかん

甕棺墓群の中で最初に確認されました。調査の結果、合口甕棺と呼ばれる2個の甕の口縁を合わせた埋葬形態であることがわかりました。合口甕棺は上甕と下甕で構成されており、下甕は壺の形をした土器と判明しました。上甕が甕形土器、下甕が壺形土器とする組み合わせは乳幼児を埋葬したと言われていたのですが、下甕の口径（直径）が30cm以下で狭いことから、甕と壺の組み合わせは乳幼児を対象とした埋葬形態であったと言えるでしょう。今回出土した小児棺は、壺（下甕）に遺体を埋葬したことを考えると、甕（上甕）の部分は蓋の役割を果たしていたと思われま



小児棺 (SK-14、合口甕棺) 出土状況

写真右下…上甕除去後の下甕（壺形土器）の出土状況

せいじんかん

### 成人棺 (SK-15 / SK-16)

非常に大きく高さは約1mにも達します。このことから、大人を埋葬した成人棺であると考えられます。小児棺に用いた土器は日常生活で使ったものを転用していますが、成人棺で使用されている甕は最初から埋葬の目的で作られたと言われていたこと、遺体を埋葬した甕だけであったこと、これは合口甕棺のような複合棺に対して、単棺と呼ばれています。単棺は蓋とする甕も持ち合わせていないので、木蓋が使われたことが推定されます。また、単棺であることから、遺体は体を折り曲げて埋葬されたと考えられます。



成人棺 (SK-15)

写真左上および右上…出土状況

写真左下…寛永通宝出土状況

写真右下…完掘